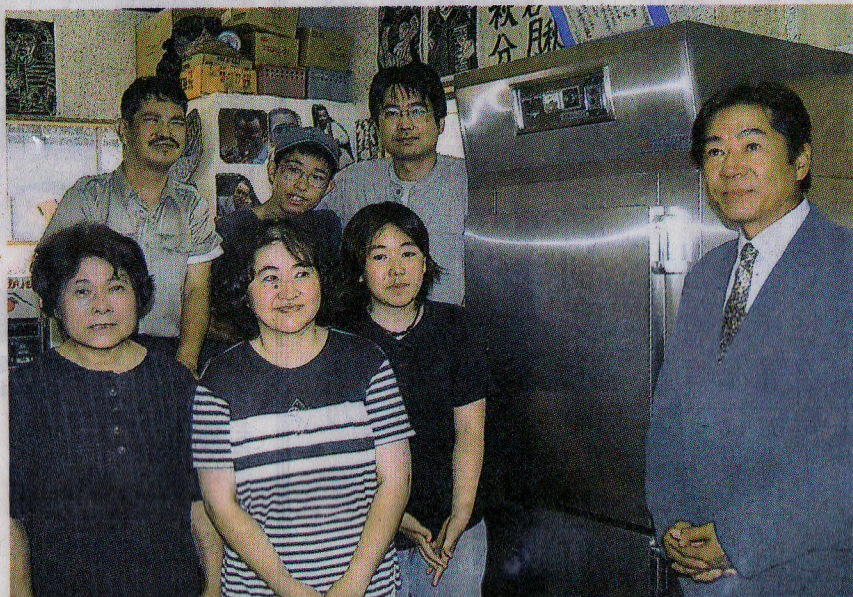


障害者の自立支えるパン工房 夢屋(一の宮町)

待望の発酵機でもっとおいしく

夢も膨らむ



パンの発酵機を贈られ喜ぶ「夢屋」のスタッフ。右端はホンダ四輪販売九州労組の本田副委員長一一の宮町

阿蘇郡一の宮町宮地にある障害者自立のためのパン工房「夢屋」(宮本誠一代表)に二十一日、待望の本格的発酵機が届いた。労働組合からのプレゼントで、工房のメンバーらは「これまで以上においしいパンが作れる」と張り切っている。

ホンダ系の労組が寄贈

発酵機を贈ったのは、九州内のホンダ車ディーラーの従業員らでつくるホンダ四輪販売九州労働組合(上田龍美委員長、千四百三十六人)。同組合は、毎回のボーナス支給時、組合員にカンパを呼び掛け、小規模作業所などを支援している。今回の対象は九州七県にある八作業所。県内では下益城郡富合町の「なすな工房」(村上佳代代表)にもヒデオカメラなど四点を贈った。

同工房にはこれまでパンの発酵機がなく、代わりにストープやホットカーペットなどを使ってメンバーが温度を勘で調節していた。しかし、パン作りで大きなウェイトを占める湿度の調節が難しかった。工房を訪れた同労組の本田敬夫副委員長全三に対し、宮本代表は「厳しい運営の中、発酵機が持ってくるとは思ってもみなかった。助かります」とお礼を述べた。

べた。

夢屋は自閉症の青年の自立を支えるため、小学校教諭だった宮本代表が九年前に設立。現在はさまざまな障害を持つ五人が働いている。注文に応じてパンを作り配達している。夢屋は☎0967

(22) 33372。